

● 柁母羅三流有熊若更山孝隆
又山孝隆の信は家伝に祝十二に
中二八の儀大菩薩摩訶薩脇侍に
し所の法を護持一所に祝十二に
福成と信しより取らるるに
あまの道に徳を公にむね十二
八つ八幡大がらに御神位に
宗十六名神位相入母又山
之に四又又天又又又又又
各相入神位皇座之儀と
し時中庭とありしに
こ名付らるる最初の中
白の流しに記す

一 紀元前九百五十年
り哉とらるる向玉女
向哉とらるる向玉女
遍次は麻利又天の光
早イソワカ子遍次
にナイナニハラキリク
伊人といふ
九字の
は阿闍梨法
く代官
一 哉とらるる
二 哉とらるる
三 哉とらるる

一 哉とらるる
二 哉とらるる
三 哉とらるる

く代官のしとて

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

一 裁子裁玉のしとて親持のし

癸掩甲し冬は丙丁と用成也

一 纒掛納家乃虎細うき一書
家掛家付之所不云ら申可九字
と唱て内又云申しはむらうん
ちんえまか上唱らむらうん

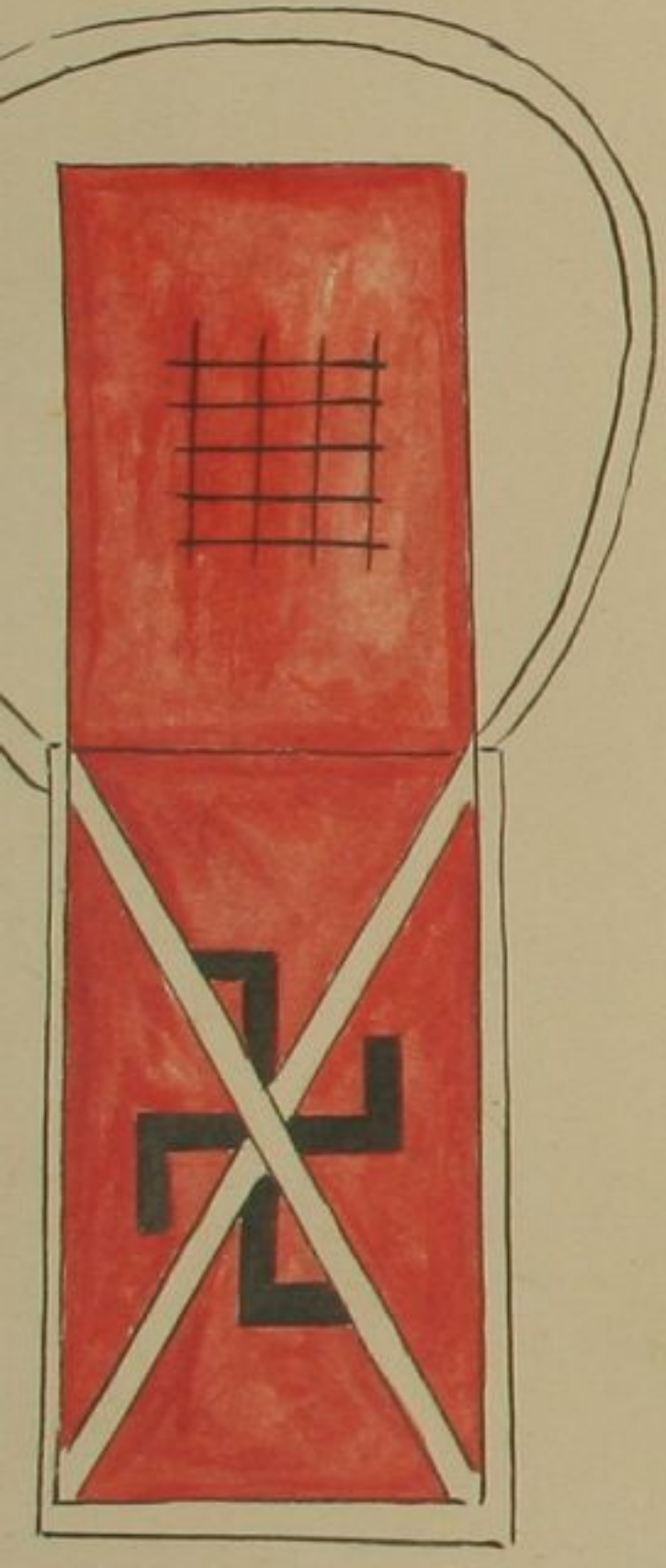
一 腕懸結付之所不云の事もしり
むらうん申んそこからん公常
る帰令須濃中言ん夜心出
如来自心増月後摩道場
因又言申し父母我心より成り
然らば此神を公常家付に

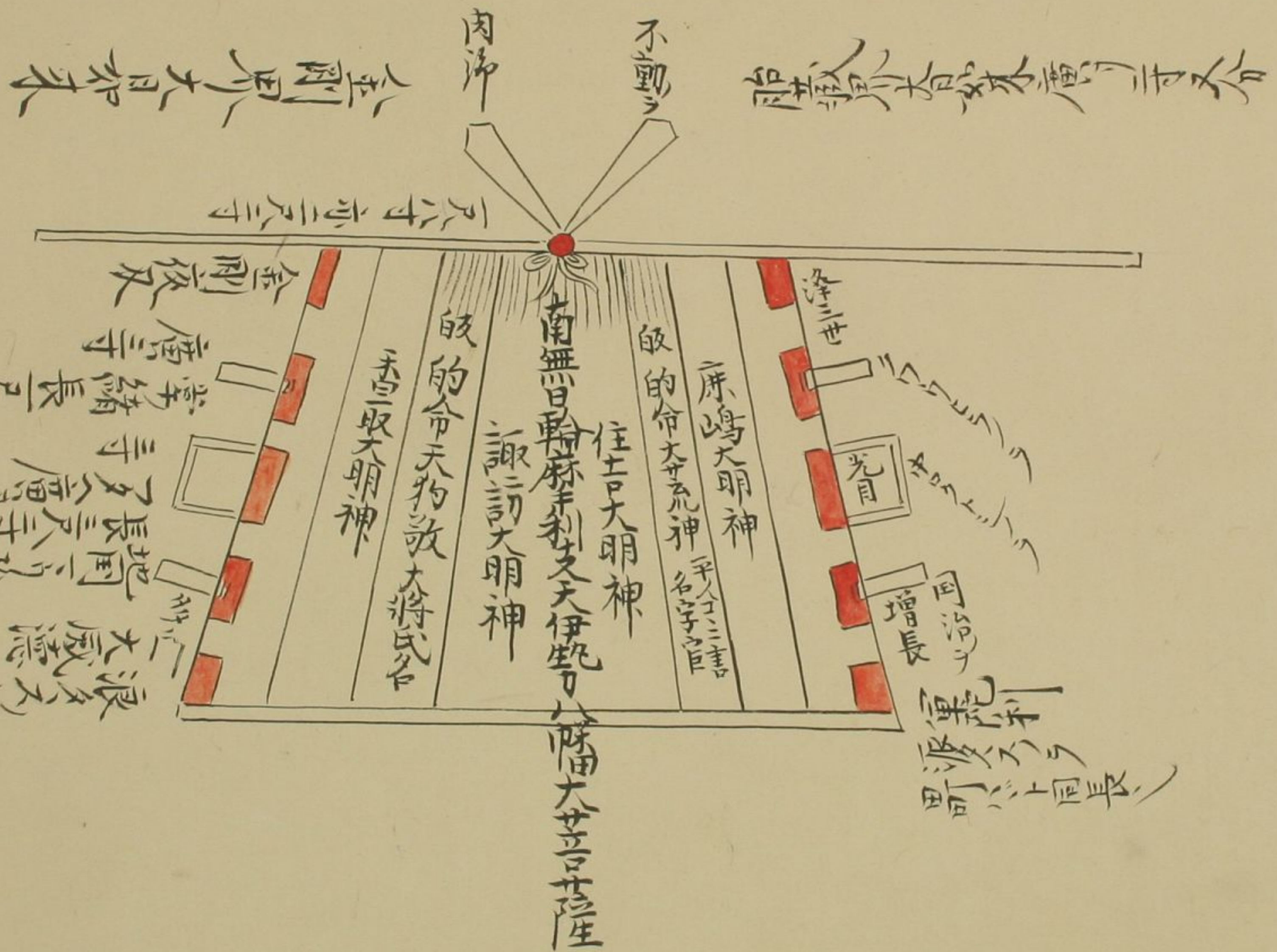
一 馬車の中ら張持て之所不云ら
之を早振神のナカイニ早張
是法馬の馬紙能事

一 纒裁時ころまむくを成同年
のへらうらあかり

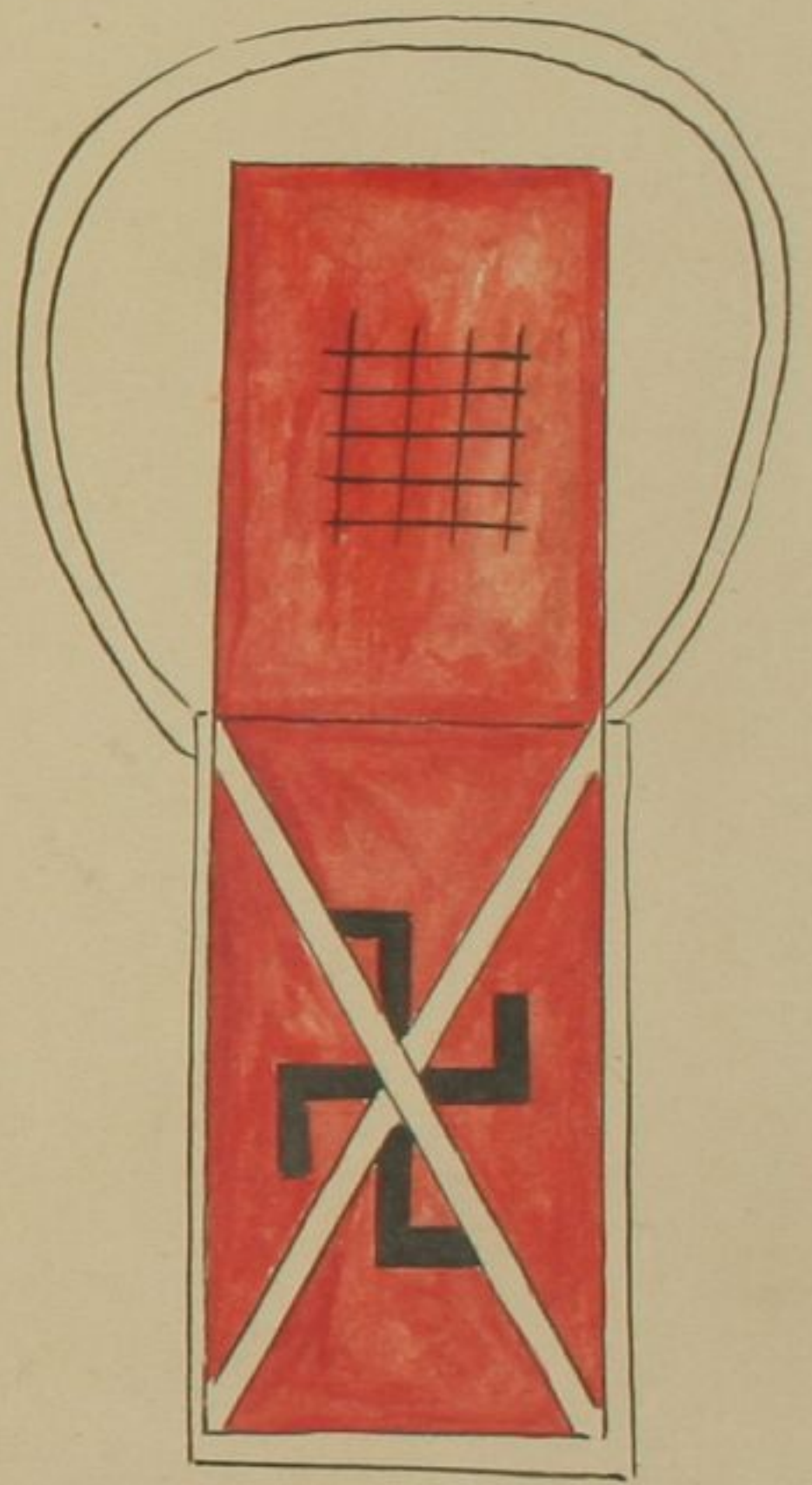
一 葦刀と小刀と酒籠子射
に懸紙をけり 是のこころ
有る射籠勝者かしの物に造
後云は家

一 纒家敷長七寸又分廣二寸
分廣の廣二寸分長一尺
三方長あり





神名は三社に成りて
 又社より言ふ好らぬ所
 心定別圖のしるし書用



廻集帳之裡勝少千里外
 是ヲ丹野之中ニ書白

迴策幄之裡騰步千里外
是ヲ丹羅之中ニ書ク

右此一巻於御當家
別而為祕事書纔
一流一傳難成復雖然
自勝野正吉傳受在之
通其方工致教授復雖
為一夏口外復者可口
借者也

菅原信益入道

三阮

箕輪治兵衛尉

吉勝

勝野孫兵衛尉

正吉

岡田兵衛尉

借者也

小宮原信益入道

三阮

箕輪治兵衛尉

吉勝

勝野孫兵衛尉

正吉

羽田兵兵衛尉

癸亥永德壬寅霜月日

重政

永井甚五兵衛殿